

平成23年度

# 消防出初式

# 茨城消防



新年号

発行所  
水戸市千波町1918番地  
茨城県総合福祉会館内  
財団法人茨城県消防協会  
編集発行人  
消防協会長 葉梨 衛  
印刷所  
富士オフセット印刷(株)  
(1部 15円)

新春を飾る消防出初式が、一月八日から十日の三日間を中心に県内各地で挙行されました。  
今回は華やかな日立市消防出初式の様子をスナップ写真でご紹介いたします。



日立市 (1/9)



## 年頭に寄せて

(財)茨城県消防協会 会長 葉梨 衛

平成二十三年の輝かしい新春を迎え、消防関係者の皆様にご挨拶申し上げます。  
消防団員・消防職員の皆様方には、常日頃から、地域住民の生命・身体・財産の保全のため、火災を始めあらゆる災害に対し、昼夜を分かたず、献身的に職務に精励されておりますことに対し、心からの敬意と感謝の意を表するものであります。

また、消防関係諸団体の皆様方には、消防防災に対する深いご理解のもと、熱心にご活動されていることに対し、深甚なる敬意を表する次第であります。

我が国の消防は、戦後、地域に密着した自治体消防として発足して以来、六十余年が過ぎ、この間、関係者の並々ならぬご努力によりまして、組織・設備の両面において、着々と充実強化されておりますことは、誠に同慶の至りです。



## 新年のご挨拶

茨城県知事 橋本 昌

平成二十三年の新春を迎え、消防関係者の皆様にご挨拶申し上げます。一方県内では、茨城空港が開港しましたほか、小児医療費の支援対象者の拡大やドクターヘリの運航開始、少人数教育の拡大など、「生活大県」の実現に向けた着実な一歩を踏み出すことができました。

昨年、田高やデフレの影響などにより厳しい経済・雇用情勢が続く、皆様方には何

ご挨拶申し上げます。  
今日、消防の任務及び活動は、火災予防、警防、救急救助をはじめ、地震・風水害、火山噴火などの自然災害への対応と広範囲にわたり、地域住民の安心・安全確保に大きな役割を果たしているところであります。

しかしながら、一向に減るこのない火災や毎年発生する台風等に加え、近年では地球温暖化の影響と思われる、いわゆるゲリラ豪雨が各地で発生し、多くの方々が被害に遭うなど、誠に憂慮に耐えないうちであります。

こうした中、益々大きくなる消防の役割と住民の期待に応え、住民生活の平穏と安全を守って行くためには、消防の組織を上げて、英知を結集するとともに、崇高な消防精神の高揚と団結を図り、地域防災力の強化を図ることが不可欠であります。

本協会といたしまして、

消防の持つ使命の重要性を深く認識し、県民の「安全・安心の確保」のため、今後とも各種事業を積極的に推進して参る所存でございます。

特に、平成十九年度の理事會・評議員会で決議いたしました「女性消防団の結成促進に向けた取組み」につきましては、各消防団長さんをはじめ、関係者の皆様の熱意とご努力により、着々と実績を上げてきており、その数は本年一月現在で三十二団(女性団員数四百六十二名)となり、今後も複数の消防団で発足の運びとなっております。

どうか皆様におかれましても、心新たに「安全な地域づくり」のため、なわ一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、皆様方ご家族様のご健康、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

かど、苦勞が多かったことと存じます。一方県内では、茨城空港が開港しましたほか、小児医療費の支援対象者の拡大やドクターヘリの運航開始、少人数教育の拡大など、「生活大県」の実現に向けた着実な一歩を踏み出すことができました。

本年は、二月に茨城空港と中部国際空港、新千歳空港と

**トーハツ 小型ポンプ**

充実のVシリーズ

V75ESからV10Fまで  
豊富な機種でお客さまのご要望にお応えいたします。

消防ポンプ自動車 消防用ホース  
消火器 消防服装  
消防資機材用品一式

茨城県代理店  
**トキワ産業株式会社**  
水戸市東原3-6-24  
TEL.029(224)3324(代)  
FAX.029(224)3360

**Panasonic**

自動火災報知設備  
非常電源設備  
自家発電設備  
CVCF設備  
FAX、パソコン

パナソニック株式会社 特機商品代理店  
**株式会社入江電機工業所**

本社 ☎310-0031 水戸市大工町2丁目3番23号  
TEL.029-224-4614(代表)  
FAX.029-224-4613  
千波営業所 ☎310-0851 水戸市千波町海通付2027番地  
TEL.029-241-3636(代表)  
FAX.029-244-0540  
土浦営業所 ☎300-0061 土浦市並木1丁目2番20号  
TEL.029-821-8498(代表)  
FAX.029-822-6575

10mから50mモリタの梯子車  
モリタの技術と設備は20種類以上の消防防災、総ての車を造ります。

完全水冷ラジエータ式、強制空冷式シバウラ小型消防ポンプ  
SFシリーズ、TFシリーズ独特の2本立で総ての機能を具えております。

消防・防災用品全般、火の見櫓撤去・移設、ホスポール建立

茨城県代理店  
**(有) 鈴 機**  
石岡市国府5-2-25  
TEL.0299(22)3010 FAX.0299(22)5846

本年も徹底した行財政改革を進めながら、「人が輝く元気で住みよいいばらき」づくりを全力で取り組んでまいります。このような中において、県民誰もが安心して暮らすことができる県土づくりを進めるうえでは、いかなる災害や事故に対しても、迅速・的確に対応できるよう消防防災体制の充実強化を図っていくことが重要であると考えております。





# 平成二十二年 消防功労者表彰

平成二十二年度茨城県消防功労者表彰式が、平成二十三年二月九日(水)、県庁舎「第一応接室」で行われました。当協会からは、来賓として葉梨会長はじめ、大塚顧問と六名の役員が出席しました。今年度は、「功労章」が十一名(消防団長六名・消防長五名)、「表彰状」が八名(元団員一名・元職員七名)、合計十九名の方が受賞されました。

「功労章」とは、「多年災害現場において消防業務に精励するとともに、指導者として功績顕著な者」として現職の消防団長及び消防長に贈与されるものです。

- 「表彰状」(八名)
- 元 大子町消防団 分団長 岡野 勝則
  - 元 土浦市消防本部 消防長 山中 輝男
  - 元 取手市消防本部 消防長 鈴木 芳雄
  - 元 取手市消防本部 消防長 伊藤 實
  - 元 大洗町消防本部 消防長 石塚 榮
  - 元 鹿島南消防本部 消防司令長 信田興四郎
  - 元 鹿島南消防本部 消防司令補 宮内 千城
  - 元 稲敷広域消防本部 消防長 栗山 繁
- 「功労章」(十一名)
- 石岡市消防団 団長 大高 昇
  - 結城市消防団 団長 大高 昇
  - 常総市消防団 第二団長 木所 大
  - 常陸大宮市消防団 団長 岡山 勝彦
  - 那珂市消防団 団長 海野 藤男
  - 茨城町消防団 団長 長洲 良男
  - 石岡市消防本部 消防長 山田 恭
  - 等間市消防本部 消防長 杉山 豊
  - 那珂市消防本部 消防長 平野 保雄
  - 大子町消防本部 消防司令長 安島 壽廣
  - 常総広域消防本部 消防正監 松崎 淳一



- 消防功労者表彰受章者
- 元 鹿島南消防本部 消防司令長 信田興四郎
  - 元 鹿島南消防本部 消防司令補 宮内 千城
  - 元 稲敷広域消防本部 消防長 栗山 繁
  - 元 取手市消防本部 消防長 鈴木 芳雄
  - 元 取手市消防本部 消防長 伊藤 實
  - 元 大洗町消防本部 消防長 石塚 榮
  - 元 鹿島南消防本部 消防司令長 信田興四郎
  - 元 鹿島南消防本部 消防司令補 宮内 千城
  - 元 稲敷広域消防本部 消防長 栗山 繁

## 平成22年度 支部別消防団長等懇談会を開催

恒例の支部別消防団長等懇談会が、昨年十二月に県南支部支部と県南南支部支部、年明け一月から残る四支部で順次開催されました。出席者は、消防団長をはじめ消防長、消防団担当課長、消防主任並びに県から消防防災課長、消防学校長及び同職員、協会事務局です。

今回の懇談会は、公益法人制度改革に伴う当協会の体制等について議題としたため、全部の支部で消防長の出席をお願いしました。

(開催日程)

- ・県南支部 五市
- ・県南南支部 九市町村
- ・平成二十二年十二月十七日 阿見町「かすみ公民館」
- ・鹿行支部 五市
- ・平成二十三年一月二十日 鹿嶋市「カシマスポッセンター」
- ・県央支部 六市町
- ・平成二十三年一月二十四日 大洗町消防本部
- ・県北支部 九市町村
- ・平成二十三年一月二十八日 ひたちなか市市毛公民館
- ・県西支部 十市町
- ・平成二十三年二月二日 八千代町役場



県西支部団長等懇談会

け入れに関する実施基準 (一) 消防団協力事業所表示制度 (二) 平成二十三年度消防学校教育訓練計画概要 (三) 新公益法人制度に関する県消防協会の体制等 (四) 日本消防協会の火災共済制度及び消防互助年金等 (五) その他消防団員募集懇談会は、まず消防防災課から、昨年策定された傷病者の搬送と受け入れに関する基準及び消防団協力事業所表示制度の導入について、続いて県立消防学校から消防学校の教育訓練計画について、それぞれ説明を頂きました。特に消防団協力事業所表示制度については、現在、国と県が消防団員の確保や活動環境の整備等を図る目的で、市町村への導入を進めており、活発な意見交換が行われました。

次に、公益法人制度改革に伴う当協会の今後の体制等について、制度の概要や組織体制、公益認定申請に向けた取り組み等を詳細に鈴木事務局長から説明しました。

最後に、日本消防協会及び全日本消防人共済会が行う各種共済事業(福祉共済・火災共済・消防互助年金)について、

## 県防災ヘリコプター「つくば」就航

茨城県防災ヘリコプター「つくば」の新型機の就航式が平成二十二年十二月二十日、つくばヘリポートで行われました。

式典では、まず主催者として県の山口やちえ副知事が挨拶、続いて来賓祝辞を当協会の葉梨会長と県消防長の木内会長が述べました。

その他、来賓には地元つくば市の岡田副市長をはじめ、県警本部、茨城海上保安部、自衛隊の各幹部、それに県内消防本部の消防長など多数が出席しました。

続いて、山口副知事や葉梨会長、木内会長、岡田副市長、県幹部等によるテープカットへと移り、華やかなお披露目となりました。その後は県防災航空隊員による新型機を使った訓練展示となり、日々の訓練成果を披露しました。

初代の防災ヘリコプター「つくば」は、平成十二年十二月二十日、つくばヘリポートで行われたテープカットによるお披露目(左から3人目が葉梨会長)



テープカットによるお披露目(左から3人目が葉梨会長)

た時間の中で有意義な情報交換が出来たものと思われま。 (つくば) (川崎BK117B-2型) は、阪神淡路大震災のあった平成七年四月に運行が開始され、火災防衛や水難救助、災害状況調査等、県内外で数々の活躍を続けてきました。総飛行時間四五千七時間四五分、運行開始以来の緊急運行件数は一〇九八件に上るそうです。

その「つくば」も、平成二十二年十二月、二代目の川崎BK117C-2型へバトンタッチされ、初代より数段も性能が向上しているそうです。新型機のこれからの活躍に大きな期待が寄せられます。

2代目「つくば」川崎BK117C-2型

## 日本消防協会主催 消防団幹部特別研修

日本消防協会主催による第三十七回消防団幹部特別研修が、平成二十三年一月十八日から二十一日まで、三泊四日の日程で実施され、本県から常総市消防団の寺田富次郎副団長が参加されました。

ここに、寺田副団長からの寄稿文をご紹介します。

### 「消防団幹部特別研修」に参加して

平成二十三年一月十八日から二十一日までの四日間、県消防協会並に関係各位のご厚意により、第三十七回消防団幹部特別研修に参加して参りました。

常総市消防団 副団長 寺田 富次郎

研修地は、日本消防会館五階大会議室、全国四十七名の参加で行われました。

開講式は、秋本理事長、久保消防庁長官をはじめ、蒼々たる方々のご臨席のもと、厳

粛に行われました。

その後、秋本理事長の時間をオーバーする程の熱のこもった講話をお聞きしました。

初日の夜は意見交換会でしたが、それぞれの郷土の名物や地酒などを持ち寄った、賑やかな、そして笑顔での催しでした。

翌日は、赤羽消防団、小澤副団長の女性分団の活動講話、続いて総務省消防庁塚田佳祐防災部長、東京消防庁伊藤克己防災部長の講話の後、「日本の救急医療の問題点」



第1班の研修生(左端が寺田副団長)

として、聖路加国際病院の日野原理理事長が、九十八歳とは思えない程しっかりと、そしてユーモアたっぷりの講話で話された。

今回は、十六年前の一月十七日、阪神淡路大震災と日にちが近いからか、主に、災害対策、危機管理等のテーマでしたが、授業の中で印象的だったのが、図上訓練というものでした。これは先ず、地震発生直後を想定し、それに對しての、自分の役割、立場から「状況の予測」、「自分の対応」、「予測や対応に對しての悩み」、これらを対応記入表に書くわけですが、やはり現実を見据えて、こんな訓練が必要だと、つくづく感じたらどうか等、皆さん一生懸命の討議会でした。

最終日前夜は、予定には無かったのですが、参加者全員、協会職員一緒になって懇親会を行いました。

やはり、幹部特別研修と言うことで、内容の重さ、参加者の意気込みで、息の抜く暇もありませんでした。

今回、この研修のレベルの高さを肌で感じて来ました。これからの活動に、大いに役立てたいと思っております。有り難うございました。

### 編集後記

今年度は平年に比べ雪が多いような気がします。水戸でも積雪が四回ほどありました。

立春とは名ばかりで、寒さもまたまたと云ったところでしょつか。梅の便りもちらほら聞かえ、春が待ち遠しいこの頃です。ただ、花粉症の方にはつらい季節となりましたが...

今年度も残すところあと僅か、もう一頑張りです。(た)